



# スキマタイムズ

もっとお互いを理解するための場や時間を

✳️ 日本自立生活センター自立支援事業所 2022年3月28日発行第132号

地域移行は



「医療的ケアの必要な人の地域生活・地域移行 プロモーションビデオ紹介」

「どれだけ重度な障害があってもできるんだ」

JCILでは団体発足当初より障害者の入所施設からの地域移行を進めてきましたが、この度、特に医療的ケアの必要度が高い重度障害者の地域での自立生活を広く知ってもらうために、プロモーションビデオ(PV)を作成しました。現在、施設や病院で暮らしている当事者やその家族はもちろん、福祉・医療従事者の人たちに「こんな風に地域で暮らせるんだよ」「こうすれば病院や施設から出られるよ」というメッセージを発信しています。

本PVは2部構成になっていて、第1部では2020年10月に宇多野病院を退院された藤田さんの1日に密着し、医療的ケアが“当たり前”に溶け込んでいる生活の様子を紹介。第2部では、宇多野病院から退院された藤田さん・植田さん・野瀬さん・田中さんの地域移行の振り返り座談会を収録し、当事者による、当時を振り返っての感想や今後に向けたメッセージなどをふんだんに盛り込んでいます。また、当事者だけでなく、その地域移行支援に携わった訪問医療や訪問看護、宇多野病院や地域のヘルパー派遣事業所、その他にも地域資源の乏しい地方で自立生活を実践している当事者などなど、幅広い方面にインタビューを行い、様々な角度からの地域移行に対する思いをおさめました。

ぜひ一度ご覧いただき、興味のある方にシェアしていただけたら嬉しいです！

35分のフルバージョン →  と10分のダイジェスト版 →  があります

※本PVは日本財団の助成事業である「With コロナ時代のオンライン地域移行支援制度モデル構築事業」のもとに制作しました。



## 「第42回京都福祉まつり」WEB公開中！

3/13(日)開催。ご視聴くださった皆様、ありがとうございました！！

コロナ対策のため今回もYouTube・LIVE配信になりました。

動画を小分けにして福祉まつりの特設HPにて公開中です。特設HP

見逃した方はぜひご覧になってください！

QRコード



第36回国際障害者年連続シンポジウム 京都市居宅介護等事業連絡協議会合同企画  
当事者、支援者、家族、みんなが安心できる地域での生活とは？  
～障害がある人たちが地域で支援を得ながら暮らしていくために～  
(第2回2月3日開催)に参加して

(福)西陣会 永瀬健太郎

京都市居宅介護等事業連絡協議会(通称:居連協)で事務局長を務めさせて頂いております、(福)西陣会の永瀬です。このたびは「シンポの報告・感想を」とお声かけ頂きありがとうございます。

居連協で2021年10月にJCIL 渡邊琢さんを講師にお招きし「介助者たちは、どう生きていくのか」という研修会を行いました。その研修会の後、渡邊さんより年明けに「こういったシンポの構想があり、居連協からどなたか登壇者を」とのお声かけを頂いたのですが、居連協としても2021年7月に「障がいのある方の地域移行に関する要望書」を京都市に提出しており、年明けにそれに関するシンポを開催したい、JCILさんからどなたかご登壇頂きたい、と偶然のタイミングで考えておりましたので、それでしたら合同で企画・開催しましょう!という話になり、今回「合同開催」させて頂くことになりました。

企画段階から関わらせて頂く中で、地域移行・地域定着というテーマの広さ、深さをあらためて実感いたしました。一言で「障がいのある方の地域生活」と言っても、知的・身体・精神の障がいの方がおられ、思い浮かべるイメージに人それぞれの違いがあるかと思えます。その全ての内容を含めたい、入所施設側のお話も聞きたい、住宅問題にも触れたい等々意見を出し合っているうちに「二ヶ月連続の二回開催」という話が決まった時は、本当に気持ちが高まりました。

ちょうど第1回(1月20日)あたりの頃から、京都でもコロナ第6波の感染拡大状況が大きくなり、シンポジウムは2回ともオンラインのみの開催となりました。

ここから第2回(2月3日)の内容について書かせて頂きたいと思えます。まず「精神科病院からの地域移行の取り組み」。いわくら病院・蓑島院長からのお話。まさに病院内での感染拡大状況が本当に大変な最中のご出演で、本当に感謝しています。「様々な立場の人からのサポートのつなぎあわせが大事で、それがあれば、無理だと思った方も地域で生活できるということを実感していて、その意義を伝えたい」というメッセージが心に残りました。

続いて「精神障害のある方の地域での暮らし、当事者の思い」でピアサポーターの葵さん・CHICOさんよりご自身の入院～地域生活についてのお話、ピアとしての役割等、貴重な経験談を聞かせて頂きました。

「重い知的障害・行動障害のある人たちの地域での暮らし」ではベテスタの家・中西さんに事前収録という形でご出演頂き、「GHか、一人暮らしか、シェアハウスか。居住支援という議論があるが、その前に一人ひとりに合わせて、どんな形がその方にとって良いのか。本人中心に柔軟に考えることが何より大事」というお話が印象的でした。

そして京都市住宅政策課より「京都市居住支援協議会」にて2021年度より「障害者支援検討部会」を新設したという報告。始まったばかりの取り組みですので、注目しつつ居連協としても出来る協力をしていきたいと思えます。

さらに立命館大学・岡田先生からは「障害のある方が地域で自力して生活できるようになるために」というテーマのお話の中で、京都市障害者施策推進審議会の会長の立場から、地域移行の数値目標を設定しようとする京都市とのやりとりのお話など聞かせて頂きました。

最後に居連協理事長・愛隣館の平田さんからはシンポ全体のまとめのようなお話と共に、コロナについてもお話頂きました。コロナ禍は「私たちの仕事とは?」「私たちの使命とは?」とい

うことを、私たち一人一人、自身に問い直す機会でもあることを、シンポの締めくくりに改めて思いました。

二回にわたって、内容盛り沢山のシンポ。当事者、支援者、家族、研究者、行政、施設、病院から、地域移行に向けて幅広い視点からの発信があり、内容もさることながら、そういった様々な立場の方々が揃って、同じテーマに向かって、同じ時間を共有しているということに、たいへん意義深さを感じ、私も進行役をさせて頂きながら胸が熱くなるものがありました。

また、当日は京都だけでなく全国からログインがあり、たくさんのご感想も頂き、たいへん刺激を頂きましたが、居連協単体での開催ではここまでの規模のことは出来なかったことで、ご一緒させて頂いたことを本当に光栄に思い、感謝しております。休憩時間(憩いの時間)に、渡邊さんのディジュリドゥと共に、弾き語りをさせて頂いたことも良い記念(?)になりました。

今回のシンポを受けて、今後居連協でも何が出来るか、何をやるべきか、引き続き考えていきたいと思えます。

本当にありがとうございました。これからも、どうぞよろしくお願い申し上げます。

## 異性介助に関する アンケート募集に ご協力お願いします

アンケート回答は  
こちらから



<https://forms.gle/b4TdffbCrNMYNeK37>

筋ジス病棟の未来を考えるプロジェクト 女性ネットワーク（プロジェクトの障害女性当事者でつくるネットワーク）では、意思に反した異性介助（※）を受けた経験のある方にアンケートを行っています。

今もなお、意思に反した異性介助が行われていることに対して、厚生労働省へ改善の要望をする予定です。その中で、アンケートで募集した当事者の生の声を厚労省へ届けたいと考えています。

小さなことでもけっこうですので、ご経験談やご意見をお聞かせください。回答者の性別は問いません。施設や病院だけでなく、居宅介護も含まれます。年齢についても、障害児から介護保険の高齢者まで対象です。

介助者やご家族のみなさんにおかれましても、アンケートの拡散及び回答の聞き取り・記入補助などのご協力もぜひよろしくお願いいたします。

（※）「意思に反した異性介助を繰り返す」ことは、厚労省による障害者虐待の防止と対応の手引きで、「心理的虐待」の例として挙げられています。

アンケートについては、こちらのweb ページで、より詳しくご案内しています。

[https://note.com/kinjisu\\_project/n/n90d554d75e6f](https://note.com/kinjisu_project/n/n90d554d75e6f)

「異性介助に関するアンケート」のお願い  
(筋ジス病棟の未来を考えるプロジェクト note より)



以下は、1月27日に行った厚労省との意見交換会の報告です。この中でも異性介助問題について触れているのでよろしければご覧ください。

[https://note.com/kinjisu\\_project/n/nd9f9e0547724](https://note.com/kinjisu_project/n/nd9f9e0547724)

「厚生労働省との意見交換会を行いました」  
(筋ジス病棟の未来を考えるプロジェクト note より)



その他ご質問等あれば、担当岡山までお気軽にお問合せください。  
JCIL 本体 tel: 075-671-8484 e-mail: [jcil@cream.plala.or.jp](mailto:jcil@cream.plala.or.jp)

[ いまこそ \* つながろう ]

SPRING FESTIVAL 春祭り PIYESTANG SPRING 봄놀이

第10回

# 東九条春まつり

ワークショップも出店します！

出店

野菜、惣菜、  
雑貨等

展示

協力団体展示、  
凌風学区児童作品展示

工作  
コーナー

作ろう！カラージュロケット、  
CDごま

ステージ

音楽、  
トークショー等

2022/4/23 土  
12:00 ~ 15:00 【雨天開催】

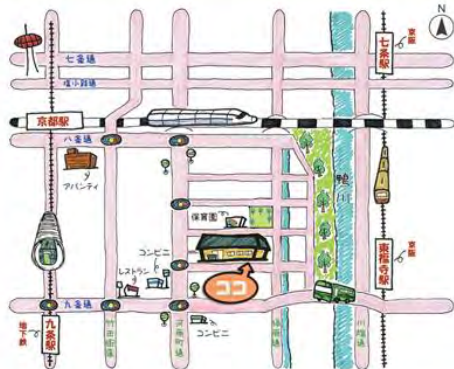
会場内での飲食は禁止です。  
エコバックをご持参ください。  
新型コロナウイルス感染拡大  
防止にご協力をお願いします。

[展示日程] 4月18日(月)~4月28日(木)  
9:00 ~ 17:00 ※日曜休館

ウクライナから避難された方々への受入支援等  
のための寄付金箱を会場に設置します。

ところ:京都市地域・多文化交流ネットワークセンター内と南側駐車場スペース

※ 新型コロナウイルス感染拡大の状況により内容が変更、中止となる場合がございます。予めご了承下さい。イベントの変更、中止があった場合、京都市地域・多文化交流ネットワークサロン公式サイト <http://kyotonetworksalon.jp> に情報を掲載致します。



主催 第10回 東九条春まつり実行委員会

住所 京都市南区東九条東岩本町31

電話 075-671-0108

FAX 075-691-7471

URL <http://www.kyotonetworksalon.jp>

E-Mail [info@kyotonetworksalon.jp](mailto:info@kyotonetworksalon.jp)

※ 駐車スペースはありません。公共交通機関をご利用ください。